

崇高な営み

法人本部相談役 遠藤教之

去る九月十三日付の各新聞は、敬老の日を迎えるに当たって、わが国の高齢者数について報じました。その記事の中心は、百歳以上の方々についてでした。

全国で百歳以上の方は、五万八千八百二十人。

最高齢の方は百十六歳で、大阪市在住の明治三十六年生まれの女性。男性は百十一歳で、なんと相馬の旧石神村生まれの方でした。県内の百歳以上の方は八百六十二人で、最高齢は会津若松市のおばあちゃんが百十一歳。都道府県別の人口十万人当たりの百歳以上の高齢者数は、平均で四六、二一人。最多が島根県で九〇、一七人。本県は四四、四九人で、島根の半分以下ということでした。

翻って、わが法人清樹会の各施設に居られておられる方々はというと、まず、「ひまわり苑」では男女ともお一人ずつ九十九歳、男性は来る十一月には百歳を迎えられます。

次に、「ケアタウン」では、なんと百六歳のおばあちゃんが元気に暮らしておられます。男性では、九十三歳の方が最高齢となっております。そして、「牧場の朝」では、来年一月に百歳を迎えられるおばあちゃん、九十八歳のおじいちゃんが元気に暮らしておられます。「逢座」は、これからの施設ですので、最高齢が九四・五歳とまだまだ元気な方々とお見受けします。これらの方々のご生誕は、明治三十年から大正の初めにかけてであります。その時勢は、日清戦争に勝利し欧米列国と対等たらんと、最強国と云われたロシアに挑み勝利した日露戦争後の、国家と

して輝き始めた時代でありました。幼少年期は、大正デモクラシーの少し華やいだ文化芸術活動の波が、全国に広まってきた世相でありました。

昭和に入った青壮年前期は、欧米を中心とした世界の時流の中で、軍国主義、戦争への道の歩みの中でありました。

そして、大東亜戦争の敗戦、廃墟の中からの戦後復興と高度経済成長のその時代は、将に働き盛りのお年でありました。

この時代の流れを学び、ご尊顔を拝する時、それぞれが生き抜いてきた柔軟さと、その身に表わしている矜持を感じざるを得ないのであります。閑話休題。先の記事が報ぜられる少し前、島根県浜田に史蹟の調査に出掛けてきました。島根県が、百歳以上の長寿者の割合が全国一と知り、思い当たることがありました。それは、浜田、津和野、出雲、安来、松江の町々を尋ね歩いた時、街なかや道端の雑草が徹底して除草され、綺麗に清掃されていることに気付いておりました。この記事を読み、このことを思い起こしました。長寿者が多いことも、そこに住む人々の日々の生活の中での心配り、誇りの表われであろうと考えさせられました。

わが清樹会職員もまた、入居者様方が、日々穏やかで満ち足りたものであるよう、曜日に関係なく三百六十五日休むことなく、心配りと誇りを持って務めております。この二つを、職員一人ひとりが兼ね備えていなければ為し得る仕事ではありません。人ひとりの生涯を考える時、それは将に、崇高な営みそのものであると。小生は、いつも仕事に励む皆さんの姿に、首を垂れる思いに駆られているのであります。

安心して過ごせる 社会の実現のために

ひまわり苑施設長 半澤尚幸

蒸し暑かった夏の終わりに安堵し、心地よい秋の風にゆったりと吹かれる間もなく、寒い季節の訪れが間近に迫っています。日々の仕事に追われながらも、季節の移り変わりに心休まり、漫然と進む日常の中で心の拠り所を得ているようです。

この9月に施設長の職に就き、まわりのスタッフに助けられながら、ひとつひとつ施設のあり方を学んでいるところです。これまで引き継がれてきたひまわり苑の系譜を大切に、培われてきた福祉理念を拠り所に、さらなる発展に尽力してまいりたいと思います。

普段あまり話さず、静かに過ごされることが多い、ある利用者さんがいらつしやいます。職員が話しかけたとき、その方はこうおっしゃいました。「私はこうして職員さんが一生懸命に働く姿を見るのが楽しみなんだ」と。心の動きを感じられ、ほっとしたことを覚えています。

ある方は自分より体が不自由な人の面倒をみて、相手もその優しさに接して前向きな気持ちになります。構音障害でうまく話せないにも拘わらず必死に話しかける方、聴き取れなくてもにこやかに相手の話を聴いてくれる方、同じ話を繰り返す人を笑顔で受入れる方、その表情に安心する認知症の方…。

他人や地域との関係性の希薄さや障害や認知症に対する社会的受容の問題が顕在化している昨今、そこには特別な関わりを持たずとも、自然発生的に形作

られる融和の関係があります。意図的に介護サービスを作り出す現状を、よりなだらかで穏やかな関係性で結ばれた社会にする手掛かりになる気がします。

年が明けると、ひまわり苑は十六歳を迎えます。今後六十年経っても日本人の平均年齢には達しません。その頃の社会は想像ができませんが、少なくとも福祉に携わる私たちは、安心して過ごせる社会の実現のために、月日を積み重ねていかなければなりません。

この仕事に誇りと自覚を持ち、安定かつ永続的に施設が運営されることがその一助となることを信じてこれからも日々の業務に邁進してまいります。

感染症の季節です。皆様におかれましてはくれぐれもお体ご自愛くださることを願ひ、挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。



株式会社
リビングコーポレーション

〒9800014
仙台市青葉区本町1-23-30
TEL 022(217)1643
FAX 022(217)1644